

ほうじょう
五穀豊穰を願う天下の奇祭

てんてこ祭

天下の奇祭てんてこ祭が1月3日、熱池八幡社で行われました。天皇が即位して初めて実った米を神々に供える祭り「大嘗祭」に由来し、本来のお田植え神事が、地元の豊年祭として毎年行われるようになったといえます。赤装束の厄男6人のうち、前の3人は「てんてこてん」という小締め太鼓の音に合わせて大根を付けた腰を振り、後ろの3人は竹ほうきを持って集落を練り歩きました。拝殿に着くと、参拝者が松葉を投げ入れる中、千秋万歳楽などの神事が行われました。



新年の幸福を祝って「鶴亀」を披露

三河万歳 新春の舞

1月4日、毎年恒例の西野町小学校御殿万歳部による三河万歳「新春の舞」が市役所市民ロビーで行われました。この万歳は、長寿を祝い、家が永久に栄えることを初春にことほぐ芸能で、江戸時代に江戸城の元旦の「開門の儀」で演じたと伝えられています。その縁起にあやかり毎年、市役所で舞い始めの儀が行われています。烏帽子に直垂姿の太夫と才蔵が、賀詞を掛け合いながら舞を披露すると、ロビーに集まった観客から大きな拍手が送られました。



愛知県最古の木造建築

金蓮寺弥陀堂保存修理工事見学会



国宝・金蓮寺弥陀堂（吉良町）の保存修理工事の見学会が1月9日、行われました。今回の工事では、屋根にふかれているヒノキの皮のふき替えが24年ぶりに行われています。見学者は足場を登り、屋根の高さまで上がると、公益財団法人文化財建造物保存技術協会の監督員から工事の説明を受けました。そして、3人の職人が屋根にヒノキの皮を幾重にも重ね、リズミカルに竹釘を打ち込んでいく姿に、感嘆の声を上げていました。

かくし絵や三連はしごを見事に披露

平成28年西尾市消防出初式



新春の恒例行事、西尾市消防出初式が1月9日、文化会館南駐車場で行われました。消防職員や消防団員、市民消火隊員約230人が参加し、日頃の訓練の成果を見事に披露しました。かくし絵では、千支の申にちなんだ「西遊記」の絵とともに、標語が浮き上がると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。消防職員による三連はしごの演技や、吉良消防団に配備された多機能型ポンプ車による救出救助訓練、消防車両10台による一斉放水、火の用心三唱なども行われ、防火・防災への誓いを新たにしました。



特大かぼちゃや珍しい形のかぼちゃが集合

第26回かぼちゃサミット

かぼちゃの大きさや珍種を競うかぼちゃサミットが12月22日、妙善寺（かぼちゃ寺／東幡豆町）で行われました。県内外から集まった約800点のかぼちゃの中から各部門を表彰。一番大きなかぼちゃは、高さ約50cm、直径約70cm、胴回り約210cmの大きさでした。冬至に当たるこの日は、出展されたかぼちゃを使った恒例のかぼちゃしるこが振る舞われ、来場者はおいしそうに味わっていました。また、小分けにされたかぼちゃを持ち帰る姿も見られました。



音楽で伝えるこれからの西尾

西尾♪(おと)絵巻



西尾♪(おと)絵巻が12月23日、文化会館大ホールで行われました。西尾市に縁のある音楽奏者と舞踏家4人が互いのジャンルの枠を越えて、西尾市でしかできない新たな文化を生み出し、伝えていくことを目的にステージを演出。ピアノ、尺八、和太鼓の演奏やダンス、そして4人のアーティストによるセッションなどがあり、観客を魅了していました。フィナーレでは、市内小・中学校の児童や生徒など約100人と一緒にテーマソング「西尾おと絵巻」が披露され、会場からは惜しみない拍手が送られました。

戦後を代表する女性詩人の特別展

詩人茨木のり子とふるさと西尾

西尾で少女期を過ごした戦後を代表する女性詩人、茨木のり子さんの没10周年特別展「詩人茨木のり子とふるさと西尾」が、12月12日から岩瀬文庫で始まりました（2月21日まで）。初日の開会式では、茨木さんのおい、宮崎治さんなどによるテープカットの後、学芸員から展示解説が行われました。詩「倚りかからず」などに登場する愛用の椅子をはじめ約50点が展示され、来場者は貴重な資料に見入っていました。



たすきをつなぎ、1年の走り納め

にしお駅伝フェスティバル2015



にしお駅伝2015が12月20日、愛知こどもの国で行われました。気軽に参加できるフレンドリー部門から高校一般部門までの7部門に224チームがエントリーしました。年末恒例となったこの駅伝大会は、会場をこどもの国へ移してから4年目を迎え、名鉄西尾・蒲郡線を利用して来場する方も大勢見られました。天候にも恵まれた絶好の駅伝日和の中、選手たちは家族や友人からの声援を受けて、起伏に富んだコースを懸命に駆け抜け、たすきをつないでいきました。